中国人旅行客個人観光ビザ発給緩和について

　個人観光ビザの入手が容易になり、今までよりも多くの中国人が、自由に日本へ入国できるようになった。このことは、日本経済に大きな影響を与え、同時に、日本の観光産業及び観光業にも大きな影響をもたらすと考えられる。JNTO(日本政府観光局)の行った調査によると、中国人日本訪問の最大の動機はショッピング。次に温泉、歴史的建造物、自然景観、日本食と続く。また、現在アメリカに留学しているメンバーが、現地で受けた印象によると、多くの中国人留学生が、日本の文化、とくに漫画、歌、伝統文化に興味を持っているという事が分かった。川崎日和を中国人留学生に見せた所、料理やラーメンの写真、お土産品のページに大変興味を持っていた。

　なぜビザ発給を緩和し、中国人旅行客を取り組もうという現象が起こっているのであろうか。これから、新旧ビザ発給用件について、今後与える影響について、今後活かすべき事柄について話す。

　はじめに、新旧ビザの比較をする。

　新ビザ発給用件では、旧年収２５万元（3,106,806.25円）から約１５万元(1,864,083円)まで引き下げられた。また、ゴールドカード保有者も個人観光ビザ発給を受ける事が出来るようになった。政府の狙いは、今までよりもより多くの旅行客を獲得する為に、狙いを富裕層から中間層へと引き下げた事にある。よって、現在では、私たちが休みを利用して数日間外国へ行くのと同じ感覚で、より多くの人々が日本を訪問できるようになった。

　次に、ビザ発給緩和が今後もたらす影響について話す。

　JNTOの国籍別目的別訪日観光客調査によると、2009年度のアジアの総数4,814,001名のうち1,006,085名が中国人である。総数の伸び率は、前年比0.6％増。観光客の伸び率は、5.7％増。商用客の伸び率12.8％減、その他が1.9％である。この時点での中国人の訪問数総数が0.6％と大変低い数字であるが、当時富裕層の団体客のみを受け入れていた結果である。総数の伸び率は、ビザ発給がより広まるにつれ、結果として増加していき、今後リピーターが増えていく事も考えられる。

　最後に、今後活かすべき事柄について話す。

　アメリカで沢山の中国人に出会った。先に述べたとおり、多くの人が日本に興味を持っている。しかし、誰一人として川崎を知る人は居なかった。まず、知名度を上げる事が先決である。例えば、羽田空港に川崎日和を設置配布するだけにとどまらず、より多くの資料を提示する事が必要である。資料に必ずDiscover　KawasakiのURLを記載する事により、書面ではなく、インターネットの情報を利用するように促す事が出来る。また、Discover Kawasakiでは、川崎大師の情報を大々的に取り上げ、季節ごとの情報の充実、お土産品の情報の充実を柱に情報提供をすることが重要である。そこから、日本食が食べられるお店の紹介へ、近郊の紹介へ等、川崎大師を中心に一日で楽しめる日本を発信していく事が望ましい。